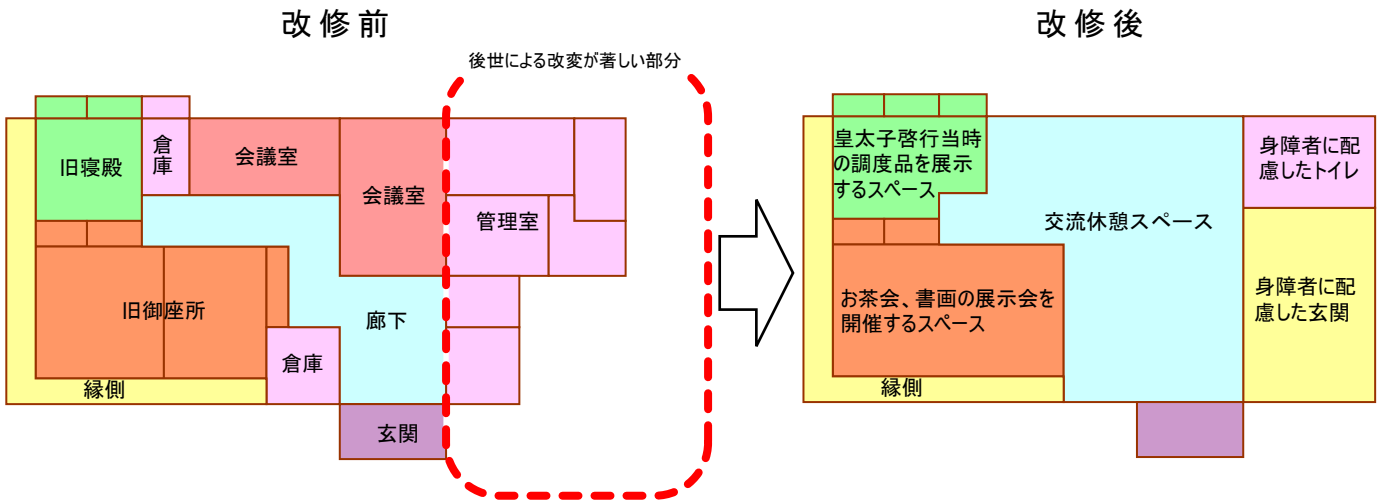

木造平屋建の純和風の建物である。
意匠は全体的に質素であるが、内装には豪華な材を用いており、皇太子行啓時代の面影を色濃く残している。

床は地面から2尺5寸上がりである。
スロープなどの身障者に配慮した施設の充実が必要である。

管理人室が設置されたこともあり、歴史的建物の外観を阻害している部分がある。
歴史ある打吹公園の景観に配慮した補修が必要である。

飛龍閣は、明治40年の皇太子行啓の際に、皇太子の宿泊所として使用された鳥取県東部の洋風建築の仁風閣とは対照的な純和風の建物で、玄関、縁まわり、旧御座所、旧寝室などにおいて、皇太子行啓当時の面影が残されている。また、隣接する庭園は、定期的に剪定を行なっており、行啓当時の様相をとどめている。さらに、飛龍各がある打吹公園内において、明治時代をしのぶ記念物が数多く残されている。
飛龍閣がある打吹公園は、開園100周年記念事業により園路のバリアフリー化が行なわれ、来訪者が増えている。しかしながら、施設の利用がないときは施錠を行なっているため、公園の来訪者が気軽に歴史ある建物に立ち入ることができない。また、身障者に配慮した施設が不足している。さらに、後世の改変により建物の風格を損ねる部分が見受けられる。
そのため、地域創造支援事業により、皇太子の宿舎であった格式高い既存建築物を利用した各種事業（お茶会、書画の展示会）を行う交流施設として、また、皇太子行啓当時の調度品を用いて当時の生活様式を紹介する展示施設として、さらに、打吹公園の来訪者がより気軽に時間をすごすことができる交流休憩スペースとして活用できるよう施設の充実をはかる。また、周辺の景観に配慮した補修を実施する。